

# 学園だより

社会福祉法人 至誠学園立川 児童事業本部

至誠学園 至誠大地の家 至誠大空の家  
ワークセンターまことくらぶ

平成27年1月1日

〒190-0022 東京都立川市錦町 6-26-15

TEL 042-524-2601 FAX 042-524-2367

<http://www.shiseigakuen.org/>

Email: [info@shiseigakuen.org](mailto:info@shiseigakuen.org)

発行 児童事業本部 広報委員会



## 2015 今年もよろしく お願いいたします

(左上) 学園の屋上にて2015年元旦式。至誠学園、至誠大地の家の子ども達と富士山を眺め新年の集いを行いました。

(左下) 児童虐待防止月間セミナーを開催。11月13日に立川市市民会館小ホールで100名を超える市民の方々のご出席をいただき開催しました。(詳細は3ページに掲載)

(右下) 至誠学園のクリスマスパーティ。24日のクリスマスイブにがくえんの3施設ではそれぞれ楽しいパーティが行われました。サンタさんから届いたプレゼントに子どもたちも大喜びでした。



## 平成27年のあさやけ

元旦は、学園の屋上に集まり、新年の集いを続けています。そこから眺める秩父の山々、富士山、南北を連結するモノレール、東西を走る中央高速道路、そしてマンションなどの町並みは、昭和43年の早朝の姿と大きく変わりました。28歳で園長に任命された私は、元旦になると思い浮かべます。

学園創設に尽力された故高橋利成の外界がこの日でした。食道ガンで命ながらえた時間を最後まで子ども達の声の聞こえる所へと、病床にありながら旧園舎の2階の園長室で執務を続け、園舎改築後の将来計画や、財源づくりに取り組んでいました。毎朝子ども達全員の日課であるラジオ体操の終わる頃、必ず窓から子ども達に「おはよう」と声を掛けていました。子ども達もそのにこやかな顔に励まされていました。亡くなる前日の日記には、「私を中心としてくれる人達の為にも生きねばならぬ」「愛情は技術なり」の言葉で筆を置いていました。

保母たちの心遣いで園長のベッドの近くでお正月を迎える準備をし、着物の着付けや髪結いなど、子ども達がはしゃぐ姿を

穏やかに見つめていました。翌朝、元旦に卒園生や暮れから泊まり込みで奉仕下さっていた慶応義塾大学ライチウス会の学生さんたちや年始の方々のご挨拶を受けて、その日の夕刻、58年の生涯を終えました。学生時代から学園の運営に関係していて、その後園長として責任を継承していく私にとって子ども達の育成、経済的苦勞を乗り越える方法に、父母の困難を克服している姿から学ぶことが多くありました。

今、社会福祉法人の在り方が根本から検討され、見直されています。至誠学園の使命は何か、目標は何であるか、そしてその支援方法、スキルの探究を忘れてはならないと改めて自分に言い聞かせる元旦でもありました。

本年もご指導ご鞭撻を願ひし、ご支援下さるよう、宜しく願ひ申し上げます。

社会福祉法人至誠学園立川理事長・至誠学園統括学園長  
高橋利一

**がくえん（児童事業本部）の近況 —子どもたちの生活や活動の様子—**

**至誠学園**

現在、至誠学園には幼児1名、小学生16名、中学生20名、高校生以上21名の全員で58名が、本園の4つのホームと、5つのグループホームで生活しています。週末の園庭では年齢関係なく子どもたちが集まり、地域のお友達や時には遊びにやってきた卒園生も加わり、サッカーや野球、バスケットボールなどを楽しむにぎやかな声が響いています。

**夏休み 勝浦の家**

夏休みには子どもたちが8班に分かれ、7月末から8月にかけて千葉県勝浦市の「陽美勝浦の家」にて旅行をしました。海水浴、魚釣り、星空観察、徳井様からの差し入れもあり新鮮な魚介類やお野菜でのバーベキューと、自然の中でゆったりと過ごし心を解きほぐしました。

また、例年高校生が挑戦する「自転車班」には、今年は中学生3名が参加、立川から勝浦までの130kmの炎天下の道のりを、計画よりも早く11時間で完走しました。



**定期試験前の中学生**

10月半ば、中学生たちは学校の間試験がありました。自分の部屋やリビング、食堂（レストラン）など、それぞれ思い思いの場所で机に向かっていました。中学3年生は職員と一緒に高校見学にも参加し、2月の高校入試に向けても準備しています。学究社様にご支援いただいている至誠 ena 塾に参加したり、ボランティアの学生さんや個別学習担当職員との勉強会、希望者は地域の学習塾を利用しながら、それぞれの目標に向け力をつけています。

**個別学習を担当している職員より**

現在、中学三年生は高校受験に向けて追い込みの時期に入り、プレッシャーのなか勉強を続けています。学園の子どもにとって、高校受験は人生で初めての進路選択であり、合否を明白につけられる競争です。自分の人生を責任を持って歩んでいくための第一歩として、志望校選択について真剣に考え、受験の結果については自分の責任として引き受けるよう、自分が全力を尽くしたと感じられる努力をしてほしいと思います。



**お彼岸 お墓参りと都内散策**

9月23日秋分の日、青山善光寺にお墓参りに行きました。

いつものようにご住職が子ども達を出迎えて下さり、学園のお父様、お母様、卒園生を偲び手を合わせました。その後、博物館や東京タワーなど、グループごとの子どもたちの企画で、都内散策を楽しみました。

**敬老の日 9月15日**

グループホーム並木の家は、高齢事業本部の老人ホーム「ミンナ」のお隣にあります。小学生Nさんは老人ホームの職員の皆さんと「チカコンアミーゴス」というグループを組み、民族楽器の演奏や、「花は咲く」の歌を披露しました。

**がくえんアルバム**



創作活動の好きなMくん（小4）が理事長と一緒に油絵に挑戦しています。

9月13日、ダイエーユニオン東日本グループの30名の社員の皆さんによる「いっぱい遊んでいっぱい食べて笑顔の花を咲かせよう」の訪問を受け、バーベキューや手つなぎ鬼など園庭で楽しい一日を過ごしました。



10月4日、JR立川駅周辺で学園に本部を置くボーイスカウトとガールスカウトが合同で赤い羽根の街頭募金をしました。9万円を超える募金が集まりました。



11月8日、東京立川ライオンズクラブの皆さんの一里親行事「第19回みんなでたのしくうんどうかい」を開催しました。



11月9日、しせいサイエンスクラブの「自然がいっぱい！多摩川源流おもしろ体験ツアーに行こう!!」で紅葉の美しい奥多摩の小菅村でトレッキングと温泉で秋を満喫しました。



## ワークセンターまことくらぶ

### ショートステイあずま開設

東京都より障害者短期入所事業所としての指定を受け、平成 26 年 10 月 1 日日野市に「ショートステイあずま」を開設致しました。短期入所事業（ショートステイ）とは、介護を行なう人（家族等）が病気で、障害がある方の自宅での介護が一時的にできなくなった時に、短期間入所し必要な介護を行うという事業です。またこのような緊急一時保護的な位置づけだけではなく、地域で生活していく為の生活訓練の場としての意味合いも含んでいます。



以前児童養護施設至誠学園のグループホーム「日野キッズ」として使用されていた建物をそのまま使用して事業運営を行っています。短期入所事業所としては建物の 2F 部分を使用しており、1F は障害者就労継続支援 B 型事業「まことくらぶ」の出張所（作業を行う分室）として使用しています。利用者定員は 3 名と小規模ですが、障害福祉分野では短期入所事業をはじめとする地域で生活するための資源不足が大きな問題となっており、利用者様や行政からも大きな期待を寄せられています。

開設してから間もなく、試行錯誤の日々ですが至誠学舎立川の障害福祉事業として地域に貢献できるよう邁進して参ります。

### 障害者就労支援

まことくらぶの会員さんが 11 月 1 日より同法人の保育園に、障害者就労枠での一般就労が決定しました。まことくらぶも働く場として日々仕事を行っていますが、利用されている皆さんの平均的な工賃（お給料）は 1 ヶ月で 1 万円ほどです。まことくらぶのような福祉施設で、働くことを福祉就労と呼び、それに対し会社や事業所等で働くことを一般就労と呼びます。

この方は 10 年以上もまことくらぶに通所されていましたが、以前より一般就労の希望を持たれており、4 年ほど前から就労に向けて様々な取り組みを行って来ました。その 1 つとして同法人内の保育園の給食室で毎日 12 時から 14 時までの 2 時間食器洗浄を行うという取り組みがあり、その方の働き方が認められ今回の就労へと話が繋がりました。

まことくらぶには様々な利用目的をもった会員（利用者）さんがいらっしゃいます。この方のように福祉就労から一般就労を目指すためにまことくらぶを利用される方。まことくらぶで仕事をする事を目標とされている方。または日中を過ごすためにまことくらぶを利用される方等様々です。それらに応じまことくらぶでは、様々な支援を行っています。今回はその中の一つ、障害者就労支援についてお伝えさせて頂きました。

### 立川市障害者週間イベント

障害者週間をご存じでしょうか？「障害者週間とは、日本国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした週間である。」上記のように法律によって定められたものです。

これにともなって立川市では 12 月 3 日より 9 日まで立川市障害者週間とし市役所をはじめとする複数の場所で啓発イベントを開催しました。まことくらぶもこのイベントに参加し、障害福祉の啓発活動を行いました。主に立川市役所 1F で市内の障害福祉施設の紹介や福祉サービスや福祉機器の説明に携わりました。期間中は大勢の方とお話する機会があり、地域における資源として啓発活動の重要性を強く実感しました。

### ヘルプカードについて

上記の障害者週間イベント開催に伴い、立川市でも「ヘルプカード」の配布が行われました。障害のある方の中には、自ら「困った」となかなか伝えられない人がいます。ヘルプカードは障害のある方が普段から身につけておくことで、周囲の配慮や手助けをお願いしやすくするものです。



街中でもしこのカードをお持ちの方を見かけた際には、「どうしましたか？」と声かけを、あるいは「何か困っているのではないのか？」と少し足を止めて頂ければ幸いです。障害のある人もない人も暮らしやすい社会の実現のために皆様のご支援・ご配慮をお願い致します。

### 児童虐待防止月間セミナーを開催

11 月 13 日〔第 11 回児童虐待防止月間セミナー「すべての子どもの幸せ実現を目指した福祉コミュニティづくり～児童虐待予防に焦点をあてて」〕を開催しました。

立川市市民会館小ホールで民生児童委員をはじめ関係機関や市民の方々 113 名の参加をいただきました。

東都医療大学助教野村政子氏、立川児童相談所長石塚健市氏、立川市子ども家庭部長松村正一氏、立川市民生委員・児童委員協議会の主任児童委員部会長山川陽子氏、そして国分美希至誠大空の家施設長をシンポジストに迎え高橋利一理事長・法政大学名誉教授がコーディネーターをつとめました。

東京都の児童虐待の現状や虐待を受け施設等で暮らす子どもたちの支援で大切にされていること、入所している子どもたちの親や家族の状況が児童相談所と施設から報告され、立川市からは子ども家庭支援センターの取り組みや民生児童委員協議会との見守りネットワーク事業の説明、また、主任児童委員からは見守り活動の難しさなどが報告されました。そして行田市のトータルサポート事業をモデルに、地域ネットワークづくりと活動の実際が紹介されました。会場からの質問や意見も交え福祉コミュニティづくりについての意見交換が行われ、最後にキーワードとして『みんなでつながる』を確認しシンポジウムのまとめがされました。

参加者のアンケートから「色々な機関の話が聞けて良かった」「関係諸機関が色々な立場から話し合う機会に参加できてよかった」「行田市のようなシステムを立川市もできるとよい」「関係機関のネットワークの必要性を強く感じた」「家庭・親に対する支援が必要であることが分かった」「また参加したい」等の感想があり当初の目的を達成できました。

## 至誠大地の家

### 夏のわくわくキャンプ

大地の家では毎年8月に子ども達全員と職員でキャンプに行きます。今回も八ヶ岳へ行きました。みんなでスイカ割りや花火を楽しみ、バーベキューでは小学生が中心となってカレーを作りました。自分たちで火を起こしたり野菜を切ったり焼いたりした手作りのカレーの味は格別でした。

2日目は子ども達それぞれやりたいプログラムを選び、大自然の中のびのびと体を動かしました。標高 2580 m の八ヶ岳の一つの山に登ったり、川でニジマス釣ったり、アスレチックで遊んだりして体を思いきり動かした後に、綺麗な景色とおいしい空気の中で食べるソフトクリームの味にみんなで感動しました。その他にもキャンプファイヤーの燃え上がる炎に驚いたり、肝試しの真っ暗な道で泣き出したり、満点の星空に「きれいだね！」と感動したり、子ども達のキラキラした表情を沢山見ることが出来ました。2歳から12歳までと年齢の幅は広いですが、それぞれが自分たちで楽しめることを見つけ思いきりその時間を楽しむことが出来ました。子ども達にとっても職員にとってもこれから先もずっと忘れられない思い出の一つになりました。

なお、このキャンプには実践女子大学の学生の皆さんにボランティアいただきました。ご協力ありがとうございます。



### 大地の家チャレンジ

7月から大地の家の小学校1年生～4年生対象の放課後プログラムとして大地チャレンジを始めました。チャレンジ専門の職員と一緒に学校の宿題に取り組んだり、遊んだりします。フラフープや大縄、将棋や手芸など様々な遊びを自分で選んで遊んだり、おやつ作りやバザーへの出店など様々な企画が用意されています。子ども達は放課後にチャレンジに行き、色々な活動を楽しんでいます。



### 担当職員からのコメント

大地チャレンジは、幼児さんや高学年児に気がねなくくつろげる場所で、学習や遊びなど様々な体験を通して、人生を支える力となる「I'm O.K.」の感覚＝自己肯定感を育むことを目的としています。

### リフレッシュ&リラックス

大地の家では親御さんや地域の方々のためのプログラムを行っています。講師の方を招いてのエステ、ヨガやピザ釜作りなどの活動をしています。親御さんと職員や地域の方々の交流の場であるとともに、リラックスした時間を送りながらリフレッシュできるような時間を過ごすことを目的としています。

### 担当職員からのコメント

日常なかなか自分のために何かをすることが難しい環境で生活をしている親御さんに、顔のマッサージやメイクをしてもらう事で、気持ちが華やぐとの声も聞かれます。また、ヨガで全身のストレッチをした後は体が伸び伸びして気持ちが良くなったり、硬くなっていた体に驚かれる場面も見られます。ご自身をいたわる気持ちがお子様への優しさに繋がることを切に祈る支援事業と考えております。

なお、このプログラムに日本ソシオエステティック協会の寒川様、岩永様のご協力を頂いております。ご協力ありがとうございます。

## ゴールドマン・サックス様のボランティア活動

### パソコン教室

7月19日 社員の皆様に大空の家にてパソコン教室を実施していただきました。ゲームをしたり、メッセージカードを作成したりとパソコンを楽しみながら学びました。



### キャリアメンタリング

7月24日 ゴールドマン・サックス社にて高校生が社員の皆様に将来について相談したり、面接の練習をしたり、楽しく交流しながら自立に向けて多くのことを学ばせていただきました。

### ヤングアメリカンズ

7月28日 社員の皆様とヤングアメリカンズのワークショップに参加させていただきました。ダンスや歌を通じて自分を表現するを楽しみました。



## 至誠大空の家

### 河口湖旅行

8月19～21日の2泊3日で夏季宿泊行事として山梨県河口湖村へ旅行に行きました。子ども職員合わせて40名での旅行となりましたが、アスレチック体験や湖畔の散策など、天候にも恵まれ、楽しく充実した旅を楽しむことができました。



この旅行は旅行プロジェクト推進本部の高校生2名を中心に、5月から準備に入り、子ども会議で子ども達全体の意見を集約しながら、旅行先の選定、移動手段、宿泊先、プログラムなどを予算、安全等に配慮して計画を進めました。実施にあたっては高校生が参加希望の子ども達を面接し、約束事を守り、旅行の成功への協力を確認するなどすることで意識が高まり、旅行中にも子ども達の主体的な姿勢が見られました。特に本部担当の高校生は参加児童の意向を踏まえたグループ分けからタクシーの手配、ペンションの支払いまで自分たちで行ったことで達成感と自信を得たようです。

### 地域交流会

8月30日 日頃お世話になっている近隣の方や町会長さん、保育園の先生をお招きして地域交流会を行いました。行事企画本部の子どもを中心にプログラムや会場装飾を考え、バーベキューに流しそうめん、ゲームに花火と和やかに交流しながら楽しく過ごすことができました。



### 夏休みポイント

大空の家では「夏休み頑張りポイント」と題し、生活や学習、部活動、お手伝いなどを頑張るごとに得られるポイントを集めて、そのポイントの合計で「お出かけ券」や駄菓子に交換できる企画を行いました。子ども達は熱心にポイントを集め、駄菓子屋のオープンには待ちかねた子ども達が列をつくり、カウントダウンが行われるほどの大盛況でした。



### タント寄贈

11月19日 全日本自動車産業労働組合総連合会様より東京善意銀行様を通じダイハツ「タント」(軽自動車)をご寄贈いただきました。当日はダイハツ東京労働組合の大井執行委員長にお越しいただき、理事長に車両を贈呈していただきました。子ども達もピカピカの新車に目を輝かせていました。



## がくえんのスポーツ活動

至誠学園、至誠大地の家、至誠大空の家の合同チームとして活動しました。

### 野球部

江戸っ子杯 (7月23～24日)

**6プロ野球大会 優勝** (8月20日)

監督よりコメント

当初は8人で練習を開始しましたが、大会に出るため、仲間を誘い、11人が集まりました。野球経験の少ない小学生も、チームの中心となって動く中学生の姿を見ながら、チーム一丸となり、見事優勝を掴みました。



### ドッジ部

江戸っ子杯 (7月29日)

監督よりコメント

今年度は至誠大地の家の子どものたちと一緒に短い期間の中、小2から小6まで10人の子どもと練習を重ねていきました。大会では人数が足りず、厳しい状況でしたが、みんなの頑張りで見事一勝しました。



### サッカー部

江戸っ子杯 (11月23日)

監督よりコメント

今年度は小2から小6までの選手13名、マネージャー2名が参加し、「声を出す!」をテーマに掲げ、熱心に練習に励みました。大会では、予選敗退という結果に終わってしまいましたが、チームワークがよい素晴らしいチームだったため、3ヵ月間活動することができました。



### バレーボール部

6プロバレーボール大会 (8月23日)

監督よりコメント

昨年度活動ができなかったバレー部ですが、今年度は新たなメンバーが集まり活動を再開しました。練習不足や個人技術の課題もありますが、中学生を中心に、「自分がカバーする気持ち」で声をかけ合い、思いやりのあるチームができつつあります。今年の大会では負けてしまいましたが、「もっとうまくなって来年は勝ちたい!」と練習を続けています。



# 至誠学園の国際交流

## カンボジア視察研修

あきる野市で幼稚園を運営されていて奥さまが至誠学園の元職員でもある長谷川さんご夫妻は、かつてカンボジアを訪れた際にその暮らしや教育環境の貧しさを目の当たりにし 2006 年にカンボジア、シェムリアップ近郊に小学校の校舎を建設し寄贈しました。その後 NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会 (ASAP) を設立し校舎の建設と学校運営のための支援を継続的に行っています。さらに母親たちに縫製の仕事を提供しその製品を日本で販売する「マザー to マザー」という活動もして子ども達が学校で学べる環境づくりにも力を注いでいます。

至誠学園の W 職員は、長谷川さんの活動に触れたことをきっかけに 2012 年 5 月より約 10 か月間、休職してシェムリアップの現地ボランティアとして ASAP の活動をお手伝いしてきました。そして、現在は、カンボジアに児童養護施設を設立することを目指して準備中です。カンボジアは、貧困問題は深刻になっていますが、その一方で人々の純粋で陽気さ優しいところは全く失われていません。いつか学園で生活している子どもたちとカンボジアの子どもたちが相互に訪問しあう交流の夢を抱いています。

今年度は、公益財団法人原田積善会さまより、カンボジア視察研修に対して助成をいただき、8 月下旬に小山常務理事、W 職員が ASAP のカンボジア・シェムリアップ訪問に同行し現地の小学校や孤児院を視察してきました。また、1 月に現地視察の職員研修も計画しています。

## カンボジアの小学校の先生が来園しました

9 月 19 日に ASAP が支援しているタットム小学校校長のヌウさんと教師のサレイさん、通訳のタラさんが長谷川さんご夫妻と来園しました。3 人の方々の



来日に際して W 職員が世話役を務め、ヌウ先生とタラさんは 3 週間の日本滞在、サレイ先生は 11 月末までの 3 か月の滞在中でした。3 人とも外国はもちろん、飛行機に乗るのも初めてで最初のころはずいぶん緊張もしていました。また、初めて体験することも多く車でトンネルを通っただけでも驚き、写真を撮っていたのが印象的でした。一番楽しかったのは東京ディズニーランドに行ったことだそうです。7 月と 12 月に実施する学園バザーに ASAP の販売コーナーが出店しています。これからのカンボジアとの関わり、どうぞご期待ください。



## テレビ朝日福祉文化事業団 高校生海外生活体験の旅

至誠学園 K 君と至誠大空の家 M さんの高校生二名が参加  
7 月 24 日～8 月 1 日 7 泊 9 日

二名の高校生がアメリカ、シアトル州で一週間のホームステイをしました。英語での会話に不安もありましたが、とても素敵なホストファミリーで、楽しい生活ができました。名所観光や英語研修、フードバンクでのボランティア、「タコマ富士」との愛称のあるトレーニア山でのトレッキングなど、アメリカの大自然や文化から沢山のことを学びました。これからの生活や進路決定にも役立てていきたいです。

## がくえんアルバム

9 月 15 日、プロダンサーで振付師でもある TSUBASA さんによるダンスと心書のワークショップに学園と大地の家から子どもと職員が参加しました。



10 月 31 日と 11 月 14 日今年もフィリップモリス・ジャパンの社員の皆様ペンキ塗や排水溝の泥かきなど労働奉仕をしてくださいました。



11 月 5 日、日本中国料理協会三多摩支部から中国料理のシェフの皆様が春巻き作りを教えてくださいました。この日は、学園すべてのホームで夕食に本場の味を堪能しました。



## 職員たより

11 月のある寒い朝、鳥小屋の前を通りがかると、今にも息絶えそうな一羽の雛が目に入りました。“ピィ”か細い鳴き声に思わず私は小屋に入り手に取ると雛は金属のように冷たかった。自室に連れ帰り、使わなくなった電気毛布とドライヤーで温めたところ、鳴き声に元気さが増し日を追うごとに食欲も旺盛になりみるみる回復していきました。この話を子どもにするとなちまち広がり「雛元気？大丈夫？ちゃんと世話してね。」「今度連れて来てよ」とせがまれる。私の後を追いかけて回り、愛らしさと共に生命力、成長力を感じる毎日です。

日ごろの子どもとのかかわりを振り返るとき、もう駄目だと諦めていないだろうか、まだやり方はあったのではないだろうか、そんなことを考える機会をくれた雛との出会いに感謝をしています。(職員 S)

## 後援会からのお知らせ

毎年、多くの方々から後援会費をご送金いただき、心より感謝を申し上げます。今後とも変わらぬご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

名誉会長：三田鶴吉 会長：佐々木信孝 副会長：浅見義明

理事：高橋利一、小山廣重、師岡恵美子、小川庄二、名取種子、長谷川照代、西村一夫

会計：渡辺道子、会計監査：杉田英一、高橋久雄

事務局：高橋久美子、林啓子

顧問：青木徳祐、岩崎浩三、土井智生、丸本大、矢野雄一

■会費の納入は下記の口座にて承ります。すでにご入金いただいている方には、重ねてのご案内を失礼いたします。

<郵便振替口座>

口座番号 00140-2-356681

口座名 至誠学園後援会

<銀行口座>

三井住友信託銀行立川支店（銀行名変更）

口座番号 普通 7902588

多摩信用金庫錦町支店

口座番号 普通 0269785

口座名 至誠学園後援会

<連絡先> 至誠学園後援会事務局

立川市錦町 6-26-15（至誠学園）TEL 042-524-2601

多くの方々からご厚志を賜りご支援に心より感謝申し上げます。子ども達を応援して下さる皆様方を私たちの心強いパートナーとして、今後も子ども達の成長を支えて参りたいと思います。あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

## ウィンターバザーを行いました

12月7日（日）は、霜が降りて寒い朝でしたが、日中は風もなく暖かい日差しに恵まれ、地域の多くの方々のご来場をいただき盛大に「ウィンターバザー」を開催することができました。

ご寄贈いただいた衣類や日用品、陶器などのお店、新鮮な野菜などの食料品の販売、カレーや焼きそば、たこ焼き、ジュースやポップコーンなどの模擬店、至誠大地の家喫茶コーナー、学園を本部に活動するボーイスカウト、ガールスカウト、サイエンスクラブの他関係団体のお店、そして、だれでも参加できるお餅つきなどお客様もスタッフも笑顔があふれるバザーができました。

バザーの運営は実行委員会が主催し、職員や子どもたちのほか 100 人を超すボランティアの皆様のお力を借りて実施しました。

品物のご提供やご寄付金、そしてボランティアとして準備から当日の販売、片付けまで多くの方々のご協力に心より感謝申し上げます。



## 子どもたちの文化活動

### テレビ朝日福祉文化事業団 キラット楽演祭

11月に虎ノ門のニッショーホールで行われた子どもキラット楽演祭では、今年も大地の家と至誠学園と大空の家3施設合同で、舞踊と合唱の発表をしました。毎週練習を重ね、舞踊は「プレゼント」というテーマで曲に合わせて体で気持ちや情景を表現しました。練習では幼児さんも多く出る順番や立ち位置などを覚えるのが大変でしたが、それぞれ自分の役をしっかり覚え、子どもらしい笑顔で体いっぱい表現できました。沢山のお客さんの前でも堂々と演じることが出来ました。合唱では、テンポが速くなったり遅くなったりする曲を体で覚えたり、綺麗な曲では綺麗な声を遠くまで伸ばす練習をしました。難しい曲でも1,2回聞いただけであっという間に覚え、子ども達の底知れない可能性を感じる事ができました。小学校高学年や中学生の子は楽器やソロにも挑戦しました。個別練習の時間以外にも子ども達から練習を申し出る等積極的に練習し、伸びのある綺麗な声が出るようになりました。

舞踊も合唱も大成功に終わり、一つの物をみんなで作りあげる楽しさや達成感を感じる事ができました。

なお、ヘアメイクにNPOアクション様と美容師の皆様、衣装にGAP ジャパン様、NPO ISSHO様に子ども達へのプレゼントを頂きました。ありがとうございます。



### 先生からコメント

#### 舞踊指導：秦野句子先生

子どもたちのあふれるような笑顔が舞踊のテーマをいっそう盛り上げすばらしい作品になりました。衣装も子どもやいっしょに出演した職員の方々の個性を引き立たせ日頃の元気な楽しい生活の様子が舞踊をとおして会場に伝わってくるようでした。

#### 合唱指導：印牧真一郎先生

「ラ・クカラッチャ」を練習した時に、言葉を発するのが楽しくて何度も繰り返し、体全体で楽しさや喜びを表現する子どもたちの姿を見てこちらまで嬉しくなりました。ひとつの曲を、歌うだけでなく体で表現する子どもたちのパワーを本番でも発揮し、大成功に終わりました。



## 地域との交流

### モンテッソーリ立川子どもの家

秋空のもとみんなで元気いっぱい運動会が終わると園庭も次第に秋から冬色に変化し、子どもの家のクリスマス会の練習が始まりました。子どもたちは自分で、劇の役をきめ、歌、ダンスの練習も進んでいます。12月20日のクリスマス会には親御さんやホームのお姉さんお兄さんなど大勢の方々をお招きし子ども達の成長を見ていただきました。

モンテッソーリ立川子どもの家



### 児童館トムソーヤの森

児童館には、16名のボランティアの大学生に来ていただいています。学生さんたちは、遊びでも工作でも子どもの目線を受けとめ子どもの心をあっという間につかみ、一生懸命関わってくださっています。

児童館トムソーヤの森

### ハロウィンパーティ

10月28日、子どもたちは思い思いの仮装をしてハロウィンを楽しみました。



### 至誠学園立川合同バザー

10月11日、至誠ホームに法人の各事業本部が集まり合同バザーを開催しました。



### 今後の予定

3月8日(日)

- ・町会(錦六会)との合同防災訓練
- ・平成27年度ガーデンパーティ第1回実行委員会

3月21日(土)

- ・至誠学園 卒園式・お別れ会
- ・モンテッソーリ立川子どもの家 卒園式

3月22日(日)

- ・至誠大空の家 大空へはばたく会

3月28日(土)

- ・法人役員会

4月29日(昭和の日)

- ・子ども達の健やかな成長を祝うガーデンパーティ

### 編集後記

年末にお届けしたかったお便りですが、新年になってしまいました。今年の干支の『未』は群れをなすことから家族の安泰を表し、平和を意味すると言われていています。今年が子ども達にとって、また皆様にとって平和な年となりますことをお祈りいたします。(広報委員K)